

はじめに

現代は将来の予測が困難な時代であり、その特徴である変動性、不確実性、複雑性、曖昧性の英語の頭文字を取って「VUCA」の時代とも言われ、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響及びロシアのウクライナ侵略による国際情勢の不安定化は、正に予測困難な時代を象徴する事態である。そのなかで我が国の教育の課題が浮き彫りになるとともに、学びの変容がもためられている。

学校教育では、子どもたち自身が自分のよさや可能性を認識し、他者を尊重し、多様な人々と協働しながら、様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることのできる資質・能力の育成がもためられている。

また、新学習指導要領では、Society 5.0 時代（超スマート社会）において、社会生活の中から解決すべき課題を見出し、主体的に考え、多様な立場の者が協働的に議論し、新しい解や納得解を生み出す力の必要性が示されている。

今年度は、この学習指導要領の「理念」や「内容」等について、十分理解を深め、これまでの取組の上に、「学校教育の質の向上」や「子どもの育ちの支援」といった取組をさらに進め、全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させていく。

そして、これまでの実践と ICT との最適な組み合わせを実現し、教職員の指導力を向上させることで、生徒の確かな学力と自立の力、生きる力の基礎を育む。また、豊かな心と健やかな体を育むための教育環境の充実を図る。なお、取組の中心を担う教職員が生徒と向き合う時間を確保し、果たすべき役割をしっかりと果たしていけるよう、働き方改革についても組織的、計画的に進めていく。

すべての生徒が、地域社会で豊かに生きるために、学校において、多様な学びの場を保証するとともに、相互理解を深め、安心して学校生活を送ることができるよう、自己肯定感や自己有用感を高めることのできる取組を推進する。また一人一人の個性や価値観、多様な文化を認め合い、多様化する人権課題を身近に感じ考える機会として、人権教育・啓発に取り組む。特に、貧困や虐待、ヤングケアラー等、様々な課題を抱える子どもへの支援体制を充実させることが重要である。支援教育については、障害のある生徒、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導・支援について共通理解を図るとともに、支援教育に対する専門性を高め、学校全体で取組を充実させていく。いじめについては、本市の「人権教育基本方針」及び「いじめ防止基本方針」のもと、引き続き、未然防止、早期発見・早期解決に向けた取組を継続して行うとともに、「学校いじめ防止基本方針」に基づき、組織的にいじめのない環境づくりに努める。不登校については、早期発見・早期対応のために、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家も含めたチームによる教育相談体制を整えるとともに、個に応じた支援を進めるために、ICT等の活用や校内の教室以外の居場所設置等の工夫や外部機関との連携を図る。体罰の根絶については、引き続き、「体罰はいかなる場合においても絶対に許されない」ということを、教職員一人一人に改めて周知徹底する。

以上のことを踏まえ、家庭や地域と連携しながら、本校の校訓である「人間尊重」のもと、自他を大切にしながら未来社会で生きる力を育み、学校教育目標である「わかる、つくる、思いやる」を具現化するため、「生徒も先生たちも同じ教育目標に向かって、いきいきと学ぼう!」をスローガンに、枚方中学校の教育をさらに前進させていく所存である。

枚方市立枚方中学校
校長 秋山 哲快

学校経営の基本方針

日本国憲法および教育基本法をはじめとする教育諸法令等に則り、また、大阪府教育委員会の教育力向上プラン、枚方市教育大綱、小中一貫教育推進事業目標を踏まえ、本校教育目標の達成のために日々研鑽に励み、保護者、地域の信頼に応えると共に、人間として調和のとれた生徒の育成に努める。

I. 校訓・教育目標

校 訓 . . . 「人間尊重」

教育目標 . . . 「わかる、つくる、思いやる」

わかる＝物事の本質や原理がわかる喜び
つくる＝文化や価値を創造する喜び
思いやる＝自他を大切にしたい人間関係を築く喜び

《めざす生徒像》

- ・ 自ら学び、考え、行動する生徒
- ・ 自他を尊重し、共感し合う生徒
- ・ 健康・明朗で礼儀正しい生徒

《めざす教職員像》

- ・ 生徒と共にある教職員
- ・ 研修し、実践する教職員
- ・ 理想に燃え、創意工夫し、協力する教職員

《めざす学校像》

- ・ 生徒にとって、学ぶ喜びを感じることができる学校
- ・ 保護者・地域にとって、信頼できる学校
- ・ 教職員にとって、やりがいを感じ共に磨きあえる学校

II. 基本姿勢

《親切に・丁寧に・あきらめず・手間を惜しまず・粘り強く》

- ① ICT機器等を活用した授業改善に努め、わかる授業の実現を図る
- ② 自他を大切にしたい心と態度を育み、自己肯定感・自己有用感を持たせる
- ③ 自主性や社会性を身につけさせ、生きる力をはぐくむ
- ④ 生徒理解に努め、規範意識を培い、いじめのない学校の実現に努める
- ⑤ 校区小学校や家庭・地域と連携し、義務教育9年間を見通した教育の充実を図る
- ⑥ 生徒・保護者・地域の思いを受け止め、迅速・親切・丁寧な対応に徹する